

2024年5月19日(日)

古代史特設会場

1. 自由論題報告 9:00-10:40

会場: 研究講義棟 115 教室

◎古代史は自由論題報告・小シンポ1・小シンポ2を一つの会場で行ないます。

- 1) 9:00～09:45 大野普希（京都大学） 司会：周藤芳幸（名古屋大学）
「歴史書としてのパウサニアス『ギリシア案内記』—イオニア地方に関する「脱線」を手がかりに」
- 2) 9:55～10:40 橋本 資久（文部科学省） 司会：栗原麻子（大阪大学）
相互顕彰としての対評議会授冠

小シンポジウム1 10:45-13:35

「ペルシア戦争の受容—古代から現代まで」

趣旨説明・司会 師尾晶子（千葉商科大学）

- 第1報告 酒嶋恭平（京都府立大学）
「ヘレニズム時代のペルシア戦争の記憶—儀礼、自由、異民族—」
- 第2報告 長谷川岳男（東洋大学）
「ローマ帝国下におけるペルシア戦争」
- 第3報告 村田光司（筑波大学）
「ビザンツ知識人たちのペルシア戦争」
- 第4報告 福田耕佑（大阪大学）
「近現代ギリシアにおける東方と文学作品におけるペルシヤ表象」

コメンテーター:

1. 守川知子（東京大学）
2. 曾田長人（東洋大学）

昼休み: 13:35-14:30

小シンポジウム2 14:30-17:30

「古代ローマ世界における農業と社会—新しい時代の多分野共同研究に向けて」

オーガナイザー：大清水裕（滋賀大学）

司会：佐藤育子（日本女子大学）

- 第1報告 大清水裕（滋賀大学）
「アウグストゥス時代の北アフリカにおけるローマ人入植者と農業」
- 第2報告 宮坂渉（筑波大学）
「後2世紀属州アフリカの皇帝所領における農業と法：ローマ法文との比較」
- 第3報告 瀧本みわ（武蔵大学）
「古代末期の北アフリカの大所領と農業：図像学的見地から」

コメンテーター：池口守（久留米大学）／渡部展也（中部大学）／赤司千恵（帝京大学）

小シンポジウム 14:00-17:30

小シンポジウム3

会場: 研究講義棟 109 教室

「リテロ・グラフィカシーから関係諸学を縫合する—問題提起と現状報告」

司会: 千葉敏之 (東京外国語大学)

14:00-17:30

基調報告 千葉敏之 (東京外国語大学)

「モノグラムからリテロ・グラフィカシー (綴字型視覚記号論) へ」

第1報告 菊地重仁 (東京大学)

「カロリング期の綴字型視覚記号—文字の視覚的表現の展開とモノグラムの遍在」

第2報告 草生久嗣 (大阪公立大学)

「ビザンツの綴字型視覚記号—中・後期印章とアイコンを題材に」

第3報告 藤崎 衛 (東京大学)

「教皇文書における綴字型視覚記号—Rota と Bene valetе にみる教皇権威のデザイン」

第4報告 加藤 玄 (日本女子大学)

「モノグラムから署名へ?—カペー・ヴァロワ朝期の綴字型視覚記号」

コメント

1. 高橋一樹 (明治大学・日本中世史)
2. 金沢百枝 (多摩美術大学・西洋美術史)

全体討議

小シンポジウム4

会場: 研究講義棟 101 教室マルチメディアホール

「帝国とネイションの語り直し」

オーガナイザー: 篠原琢 (東京外国語大学)

14:00-17:30

主旨説明

第1報告: 篠原 琢 (東京外国語大学)

「帝国崩壊を語り直す: 「国民化する帝国」、ハプスブルク君主国とその継承諸国」

第2報告: 青島陽子 (北海道大学)

「ロシア史における「帝国論的転回」再考」

第3報告: 稲垣春樹 (青山学院大学)

「イギリス帝国と法—ポスト「ポストコロニアル」総合へ向けて」

第4報告: 中澤達哉 (早稲田大学)

「帝国の叙法—近世帝国論と近代帝国論を架橋する—」

コメント: 小田原琳 (東京外国語大学)

全体討論

小シンポジウム5

会場: 研究講義棟 226 教室

「20世紀の諸国家の統治と強制移動の論理」

オーガナイザー: 山本明代 (名古屋市立大学)

14:00-17:30

主旨説明 山本明代

第1報告 千葉芳広 (金沢大学)

「フィリピン・アメリカ戦争にみる人種と感染症—強制移動との関係における考察」

第2報告 米岡大輔 (中京大学)

「移民が難民に変わるとき—バルカン戦争期ハプスブルク治下ボスニアにおけるムスリム帰還問題」

第3報告 百瀬亮司 (早稲田大学)

「バルカン戦争期におけるセルビア知識人の反アルバニア言説」

第4報告 柴田暖子 (政策研究大学院大学)

「東ドイツとアフリカ難民—ナミビア独立と子ども難民受入れに関する一考察」

コメント

長島怜央 (東京成徳大学)

割田聖史 (青山学院大学)